

## 単元名

# 災害から守ろう、安浦 ～ゆけ、安浦っ子調査団！災害に負けない町づくり～

男子 13名 女子 15名  
計 28名

## 1 単元のデザイン

### 単元について

- 本単元は、本校が「総合的な学習の時間の全体計画」で定める「目標(2)ふるさと安浦の人、もの、ことの中から問いを見出し、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことを、根拠を明らかにしてまとめ、表現する力を身に付ける。」を受けて設定されたものである。本校区は平成30年西日本豪雨災害により大きな被害を受けた。自分たちの命や地域の人々の生活を守るためにも、災害に負けない町を目指して自分たちにできることを考え実行することが自分の命は自分で守ることに繋がると考える。
- 非常持ち出しグッズや避難所、避難経路について調べたり、それらを地域に発信する活動に協働して取り組んだりする活動を通して、地域の一員として災害から町を守るためにできることを考え、行動しようとする中で、本校で育成を目指す資質・能力を育むことができる。

### 児童の実態

- 本学級の児童は、1学期に行ったアンケートにおいて、「災害から自分の身は自分で守れる」と肯定的に答えた児童は100%である。一方で、「災害時に必要な備えをしている」と肯定的に答えた児童は51%と低い。これまでの防災教育により、災害や防災に対する関心は高いものの実際に行動するに至っていないことが分かる。また、「自分が住む地域のが好き」と肯定的に答えた児童は100%、「地域に貢献している」と答えた児童は53.8%であった。地域に対する愛着はあるが、実際に地域のためにできることを考え行動に移すことは難しいと考える児童が多いものと思われる。
- 「自分で考えたり調べたりしたことをまとめて表現することは得意」と肯定的な評価をした児童は73%であった。

### パフォーマンス課題について

- 本単元では、ふるさとである安浦町の人々を、これから起こるであろう自然災害や、西日本豪雨災害のときのような恐怖や不安から守るために、自分たちにできることを考え、行動するという課題解決的な思考を育てるパフォーマンス課題を設定する。まず、防災に対する意識調査を行い、自分たちの課題を見付けさせる。同時に地域の方へアンケートを行い、防災に関してもっと知りたいことや不安なことなどを聞き、自分たちが行動し発信することの必要感をもたせる。グループのメンバーや地域の方と協力しながら、情報収集の方法を選択したり、収集した情報を整理・分析したりすることを通して、主体的・協働的な活動を促す。そして、知り得た知識をどのように表現すれば地域の方に分かりやすく発信できるのか考える活動を通して、思考力・判断力・表現力が育成されると考える。

### 思考を深める指導のポイント

- 非常持ち出しグッズや避難所等を調べる際には、グループごとにその対象を変える。常に、グループごとの調べた情報を共通点や相違点に注目して考え、比較したり分類したりすることができるようにしていく。
- 調査したり、それらをまとめたりする際には、地域の実態と関連付けることで、伝えたい相手や目的によって適切な情報を選んだり理由や根拠を述べながら表現したりする力を身に付けさせる。

## 2 単元の目標

非常持ち出しグッズや避難所、避難経路について調べたり、それらを地域に発信する活動に協働して取り組んだりすることを通して、一人一人の行動が町を守ることにつながることや地域の人々の願いについて理解し、地域の一員として災害から町を守るためにできることを考え、進んで取り組むことができるようにする。

## 3 単元の評価規準

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①非常持ち出しグッズは、必ず必要なものと状況に応じて必要なものに分類できることや、避難所によって対応人数や災害等が違うこと、安全な避難経路と非難にかかる時間について理解している。 ②インタビューや質問紙などによる調査を、目的や場面に応じた方法で実施している。 ③自分で自分の命を守る意識と防災に対する認識の高まりは、防災と自分たちの生活や地域との関係を探的に学習してきたことの成果であると気付いている。	①防災についてよりよく理解するために必要な情報を、手段を選択して収集している。 ②安浦を災害に負けない町にするために収集した情報について、友達の見解と比較したり、地域の方の願いと関連付けたりしながら、整理・分析している。 ③活動を通して学んだ防災に関する内容について、地域の実態と結び付けながら、情報が伝わるようにリーフレットにまとめ、表現している。	①防災に関心をもち、自分自身の災害に対する備えを見つめ直したり、地域の実態を把握したりしながら、地域のためにできることを考え、自分の意思で探究的に取り組もうとしている。 ②調査をして得た知識や、自分と異なる友だちの考え、専門家の意見を生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。 ③活動を通して身に付けた、安浦を災害に負けない町にするために必要なことを、地域の方に発信しようとしている。

#### 4 単元計画（全45時間）

次		学習内容	評価規準（評価方法）		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
一	1 5	<b>振り返り</b> 「課題について見通しをもつ」 ・これまでの災害に対する備えを振り返り，成果と課題を整理する。			
	2 5	<b>課題の設定</b> ・地域の方への防災に関するアンケートを実施し，地域の実態を把握する。	○知②（ワークシート）		
	6 8	<b>情報の収集</b> 「調査1 非常持ち出しグッズについて調べる」 ・非常持ち出しグッズの有無や中身について安浦小学校の実態を調査するアンケートを作成し，実施する。	○知②（ワークシート）		
	9	・自分ならどんな非常持ち出しグッズを用意するか考える。 <b>比較する</b> <b>分類する</b>		◎思②（ワークシート，行動観察）	
	10 11	・グループに分かれて非常持ち出しグッズの中身について調査する。		◎思①（ワークシート，行動観察）	◎態①（ワークシート，行動観察）
	12 （本時）	<b>整理・分析</b> ・調べた非常持ち出しグッズについての情報を比較・分類する。 <b>比較する</b> <b>分類する</b>		◎思②（ワークシート，行動観察）	
	13 14	<b>情報の収集</b> ・グループに分かれて様々な場合の非常持ち出しグッズの中身について調査する。		◎思①（ワークシート，行動観察）	◎態①（ワークシート，行動観察）
	15	<b>整理・分析</b> ・調べた非常持ち出しグッズについての情報を比較・分類する。 <b>比較する</b> <b>分類する</b>		◎思②（ワークシート，行動観察）	
	16 17	<b>まとめ・創造・表現</b> ・整理した情報を基に，非常持ち出しグッズをリーフレットにまとめる。	◎知①（リーフレット）	◎思③（リーフレット）	
二	18 21	<b>情報の収集</b> 「調査2 避難所について調べる」 ・避難所について調べたり，関係機関から話を聞いたりする。	◎知②（ワークシート，行動観察）		◎態①（ワークシート，行動観察）

	22 ・ 23	整理・分析	・避難所について調べた結果を比較する。 比較する 分類する		○思②(ワークシート, 行動観察)	
	24 ・ 26	まとめ・創造・表現	・整理した情報を基に, 避難所についてリーフレットにまとめる。	◎知①(リーフレット)	◎思③(リーフレット)	
三	27 ・ 30	情報の収集	「調査3 避難経路について調べる」 ・各地区の危険な場所や避難までにかかる時間を実際に歩いて調査する。 関連付ける		○思①(ワークシート, 行動観察)	
	31 ・ 32	整理・分析	・各地区の避難経路やかかる時間について整理する。 比較する		○思②(ワークシート, 行動観察)	
	33 ・ 42	まとめ・創造・表現	・整理したことを基に, 地域の方と協力して避難経路を「逃げ地図」にまとめる。 ・防災フェスタに向けて発表の仕方を考えたり, 準備をしたりする。	◎知①(リーフレット)	◎思③(リーフレット)	◎態②(リーフレット, 行動観察)
	43 ・ 44	実行	「調査して分かったことを地域の方に発表する」 ・パフォーマンス課題に取り組む。 ・安浦を災害に負けない町にするために, 学習した内容を地域の方に伝える準備をし, 防災フェスタで発表する。			◎態②(ワークシート, 行動観察) ◎態③(パフォーマンス課題, 行動観察)
	45	振り返り	「これから自分ができそうなことを考える」 ・単元の学習を振り返り, 安浦を災害に負けない町にするために自分にできることやこれから取り組みたいことについて考える。	◎知③(振り返り)		

※指導に生かす評価を行う代表的な機会については「○」を, その中で特に学級全員の児童の学習状況について総括の資料にするために記録に残す評価を行う機会には「◎」を付けている。

## 5 本時の学習（本時 12 / 45）

### （1）本時の目標

地域の方に絶対に用意してもらいたい非常持ち出しグッズについて、友だちの意見と比較しながら考え、分類することができる。 【思考・判断・表現】

### （2）学習の流れ

	学習活動 (○主な発問・予想される児童の反応)	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
つかむ	1 前時までの学習の振り返りと、本時の学習とパフォーマンス課題との繋がりを確認する。  2 本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート結果を提示し、自分たちも地域の方も非常持ち出しグッズを用意している家庭の割合は少なく、何を用品してよいか分からないという不安が多かったことを押さえる。</li> <li>色々な種類の非常持ち出しグッズを全て運ぶのは難しいことを押さえ、めあてに繋げる。</li> </ul>	
	地域の方に用意してもらいたい、絶対に必要な非常持ち出しグッズを選ぼう。		
考える	<b>学び合い①自分の考えをもつ</b> 3 個人で、3日間の避難生活をすると仮定した非常持ち出しグッズを「絶対に必要なもの」(7つ)と「あると安心するもの」とに分ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>全員が同じ視点で考えられるように避難生活を3日間と仮定する。</li> <li>自分一人ではなく、家族に必要なものも踏まえて考えさせる。</li> </ul>	
深める	<b>学び合い②比較・分類しながら思考する</b> 4 グループで話し合う。 比較する 分類する ○友だちの考えと比較しながら、地域の方に絶対に用意してもらいたい非常持ち出しグッズを7つ選ぼう。 ・飲料水や食料品は命に関わるものだから絶対に用意をした方がよいと思う。 ・うちは赤ちゃんがいるからミルクが必要だけど、他の人はどうか。 ・3日間の避難生活だから、着替えは必要だと思う。	<b>学び合い③考えを広げたり深めたりする</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>非常持ち出しグッズが書かれたカードを用意し、話し合う際に分類しやすいようにする。</li> <li>分類するときは、何のために必要なのか、根拠を基に、必ず理由を述べさせることで、目的に合った話し合いができるようにする。</li> <li>7つの中に入れるか迷ったものは、後で全体で交流できるように記録しておくようにする。</li> </ul>	安浦を災害に負けない町にするために収集した情報について、友達の意見と比較したり、地域の方の願いと関連付けたりしながら、整理・分析している。 【思②】

振り返る	<p>5 全体で交流し、意見をまとめる。</p> <p><span>比較する</span> <span>分類する</span></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>選んだ理由を挙げながら話し合わせ、非常持ち出しグッズには健康面や衛生面を支えるものや、情報を仕入れるためのものがあることを押さえる。</li> <li>迷ったものに注目させ、その理由を発表させることで、非常持ち出しグッズは誰にとっても必要なものと家族構成によって必要なものがあることに気付かせる。</li> </ul>	(ワークシート, 発言)
	<p>6 本時の学習のまとめをする。</p>	<p>地域の方に絶対に用意してもらいたい非常持ち出しグッズは、・・・である。</p> <p>その他にも、家族構成によって必要なものがある。</p>	
	<p>7 本時の学習の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パフォーマンス課題と関連付けて、地域の方や自分の命を守るために考えることができたか振り返らせる。また、これから調査する必要があることは何か考えさせる。</li> </ul>	

## 6 板書計画

災害から守ろう、安浦 ～ゆけ、安浦っ子調査団！災害に負けない町づくり～

㊦ 地域の方に用意してもらいたい絶対に必要な非常持ち出しグッズを選ぼう。

比較する 分類する

**地域の方のアンケート結果**

地域の方の声

- どんな非常持ち出しグッズを用意するとよいか知りたい。
- 用意しているが不安。

5年生のアンケート結果

- ないと命が危険
- 健康面
- 衛生面
- 情報を知る手段として

**絶対に必要なもの**

飲料水  
食料品  
着替え  
スマートフォン  
充電器  
マスク、タオル、歯ブラシ  
アルコールスプレー  
ウェットティッシュ

**迷ったもの**

犬のごはん  
赤ちゃんのミルク  
薬  
杖  
おむつ

救急グッズ  
軍手  
懐中電灯  
携帯ラジオ  
予備電池  
洗面用具  
携帯トイレ  
ビニール袋

- 家族構成によっては必要なものが違う

1 グループの考え

絶対に必要なもの | まよったもの

2 グループの考え

絶対に必要なもの | まよったもの

3 グループの考え

絶対に必要なもの | まよったもの

4 グループの考え

絶対に必要なもの | まよったもの

5 グループの考え

絶対に必要なもの | まよったもの

6 グループの考え

絶対に必要なもの | まよったもの

㊧ 地域の方に絶対に用意してもらいたい非常持ち出しグッズは、・・・である。その他にも、家族構成によって必要なものがある。

## 研究のまとめ

総合的な学習の時間 第5学年2組 指導者 東 実樹

単元名 災害から守ろう、安浦 ～ゆけ、安浦っ子調査団！災害に負けない町づくり～

### <成果と課題>

#### 成果

単元を通しての変容

単元を始める前に、防災に関する意識のアンケート調査を行った結果、「災害時に対する必要な備えができていない」と肯定的に回答した児童の割合は51%と低かった。しかし、中間の調査では「災害時に対する必要な備えについて改善できた」と肯定的に回答した児童の割合が92%に増加した。自主的に、自分の家庭で準備していた非常持ち出しグッズの中身を確認したり、避難経路を歩いて危険なところを写真に撮ってまとめたりする児童の姿も見られた。また、単元の振り返り際には、「前は自分のことしか考えていなかったけど、地域のことをもっと知りたいと思うようになった。」「調べたことを自分たちだけのものにするのではなくて、地域の人にも知ってほしいという思いが強くなった。」といった発言が多く見られ、地域の一員として災害から町を守るためにできることを考え、進んで取り組もうとする気持ちが高まった。

資質・能力「知識・技能」について

「非常持ち出しグッズ」について、授業当初は思いつくままに列挙する児童が大半であったが、グループで話し合わせた際、授業者から「『誰にとって』必要なグッズなのですか。」「(児童からの「地域の方にとって必要なグッズです。」という解答を受けて)安浦の地域には、どのような方が住んでいるか考えてみましょう。」等と発問することで、「安浦にはお年寄りが多い。お年寄りに必要なものは薬だと思う。」「その視点でいくと、ゲームとペットのご飯は不要ではないか。」といった発言が増え、拡散しがちであった児童の議論がまとまった。その結果、多くの児童が非常持ち出しグッズは誰にとっても必要なものと家族構成によって必要なものがあるものとして分類できることに気付くことができた。

また、「服が雨で濡れると風邪をひいてしまうから着替えは必要」など、実体験を基に理由を明確にして自分の意見を説明したり、友だちの意見と比較したりすることができていた。

資質・能力「思考・判断・表現」について

調べた情報を整理、分析する際には常に単元の目標に返り、安浦を防災に負けない町にするための活動であることを意識させた。グループでの話し合いでは、児童は「安浦にはお年寄りが多いから必ず薬が必要」「地域の方のアンケートでは、コロナ感染症を心配する声が多かったからアルコールスプレーがあった方がいい」など、地域の方の願いと関連付けながら整理・分析しており、「思考・判断・表現」の資質・能力が深まっていく様子が見られた。

● ふり返し

わたしは、自分のために必要な物は、しっかり考えていたけど、いろいろ体にしょうがいがある人や赤ちゃんやおなかに赤ちゃんがいる人はとてもたいへんで、少しでも協力してあげたいなと思いました。



資質・能力「主体的に学習に取り組む態度」について

自分たちのこれまでの防災の取組についてアンケートで振り返り、成果と課題について整理させた。その結果、「防災について意外とできていないことも多いことが分かったから調べていきたい」等、自



分自身の災害に対する備えを見つめ直す発言やワークシートへの記述が見られた。また、地域の方へのアンケートを行ったことで、地域の方も自分たちと同じように非常持ち出しグッズや避難所、避難経路について不安感をもっていることが分かったため、地域のためにできることを考え、自分の意思で探究的に取り組もうとする態度を高めることができた。

気づき

・かっている犬やペットのことについての不安が強い。  
 ・コロナが3月になるかという不安が強い。  
 ・避難所に入れるかどうかの不安が強い。  
 ・避難所に高さがなく低くいから不安の人が強い。

ふり返り

わたしは、この仕事を受けるまで、ペットがいる人は、災害の時どふたらいいだろうと思っていたけど、この仕事で、非常食を日ごろから用意するのは大切だと思えたし、お世いきの人に、この事を伝えて、少しでも非常食を用意して、災害がきても、自分の命を守れる人が増えたらいいなと思いました。

### 課題と今後の展望

単元の導入の時点で、単元を通して調べていくものを決定したため、単元の見通しはもちやすかったが、第1調査から第2調査へのつながりをもたせることが難しかった。第1調査では非常持ち出しグッズを調べたため、調査のまとめ段階において、授業者が「避難所に備蓄されているものはもっていかなくてもいいのではないか」「避難所に何があるのか知りたい」といった児童の意見を取り上げて第2調査の「避難所について調査しよう」に繋げた。しかし、これらは一部の児童の意見であったため、学級の全ての児童が第2調査のテーマを「自分事」として捉えることができていたか疑問が残る。単元構成を工夫し、多くの児童から次への課題が挙がるような「しかけ」が必要であったと考える。

本単元は、地域とのつながりを大事にして行った。児童はアンケートやインタビュー、友だちとの話し合い等を通して、自然災害への備えが自分たち自身の課題でもあり、地域全体の課題でもあることを実感している。さらに学習を深めるために、思考を促す発問等の工夫とそれらのしかけを構造的に配置することがとても重要であると感じた。これからの単元づくりに生かしていきたい。